

株式会社アドバンテスト
会社説明会

2010年10月28日

代表取締役 兼 執行役員社長 松野 晴夫

2010年度 第2四半期 決算報告

業績の概要

ADVANTEST.

(単位: 億円)

	2010年度					
	1Q	2Q		1Q-2Q累計		
		実績	前期比 (%)	7月発表の予想	実績	予想との差異
受注高	308	233	-24.7%	620	541	-79
売上高	235	286	21.3%	530	521	-9
売上原価	119	149	24.6%	-	268	-
売上総利益	116	137	18.0%	-	253	-
営業利益	18	29	61.5%	50	47	-3
営業外収支	-2	-4	-	-	-6	-
税引前純利益	16	25	52.1%	49	41	-8
当期純利益	8	18	129.0%	31	26	-5
受注残	276	223	-19.3%	293	223	-70

3

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2010/10/28

○ 当第2四半期の業績概要

- ・ 受注高は、233億円 前期比で24.7%減少
- ・ 売上高は、286億円 前期比で21.3%増加

また、

- ・ 営業利益は、29億円
- ・ 税引前純利益は、25億円
- ・ 当期純利益は、18億円

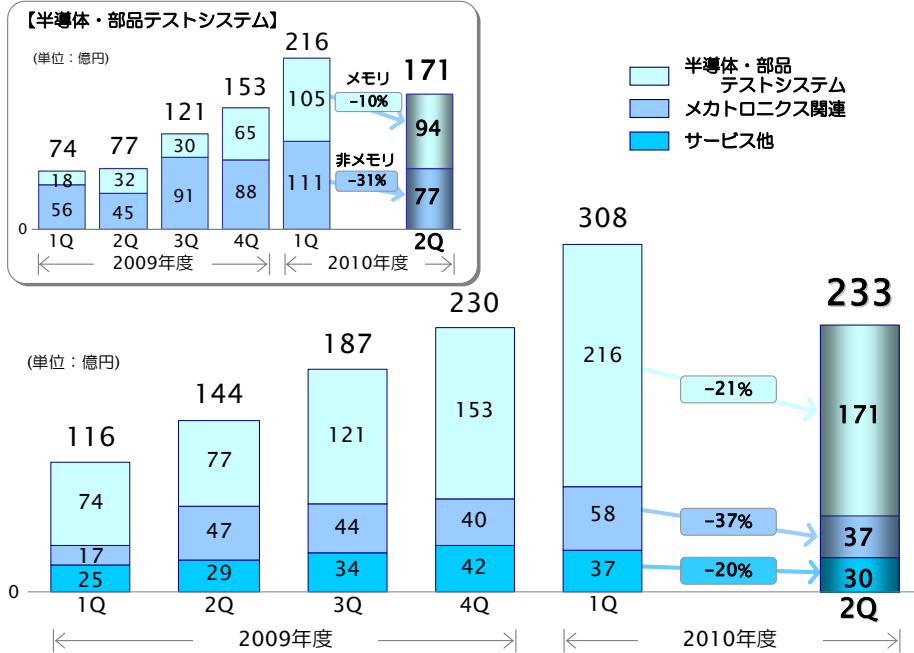
前年同期比で大きく回復したものの、
7月28日に発表した上期業績予想と比較すると

- ・ 受注高については、当四半期後半以降、
一部顧客の発注が延伸となった影響により想定ほど伸びず、
- ・ 売上高と利益は、予想値を若干下回った

○ また、受注残は223億円となった

- なお、通期の業績予想については、
第3四半期以降の見通しが不透明なため、開示を差し控えた。
見通しがつき次第、開示する予定

受注高 事業セグメント別



○ 2010年度第2四半期の事業セグメント別受注高

- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・前期比 21%減 171億円

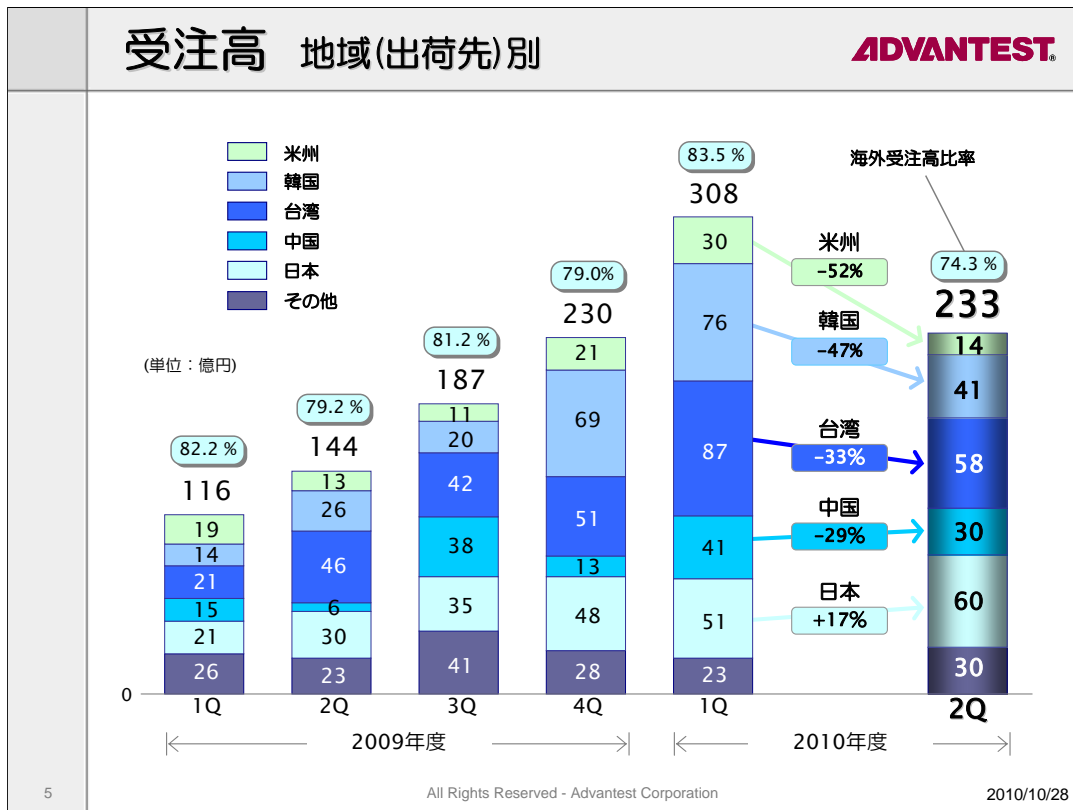
(主な減少要因)

- ・メモリ・テスト
 - 前期比10%減
 - 期の後半以降のパソコン市場軟化の影響により、後工程向けT55シリーズが減少した。
 - 前工程向けT53シリーズも、前期比では大きく伸びたが、期初の予想を下回った
- ・非メモリ・テスト
 - 前期比 31%減
 - デジタル家電・パソコンなどの需要減少の影響を受けて、LCDドライバIC向けテストの受注が想定を下回った

- メカトロニクス関連事業
 - ・前期比37%減 37億円

(主な減少要因)

- ・デバイス・インタフェース、テスト・ハンドラ共にテスト投資の延伸に連動して減少した



○ 地域別受注高

- ・ 日本では増加
- ・ それ以外の地域では減少

○ 主な地域の傾向を概観すると、

(日本)

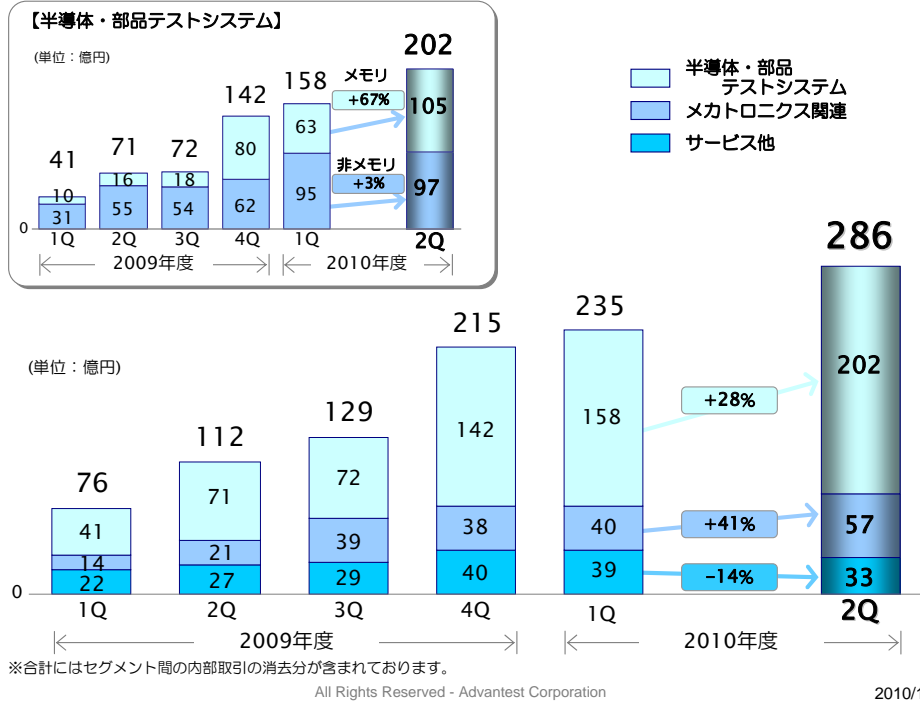
モバイル機器用DRAM向けのメモリ・テストが増加

(韓国／台湾)

パソコン用DRAM向けのメモリ・テストと、
それに接続されるメカトロニクス製品が減少

売上高 事業セグメント別

ADVANTEST.



○ 2010年度第2四半期の事業セグメント別売上高

○ 半導体・部品テストシステム事業

・前期比 28%増 202億円

・メモリ・テスタ

前期比 67%と大幅に増加。

後工程向けT55シリーズ、

前工程向けT53シリーズが共に増えた

・非メモリ・テスタ

前期比3%増加

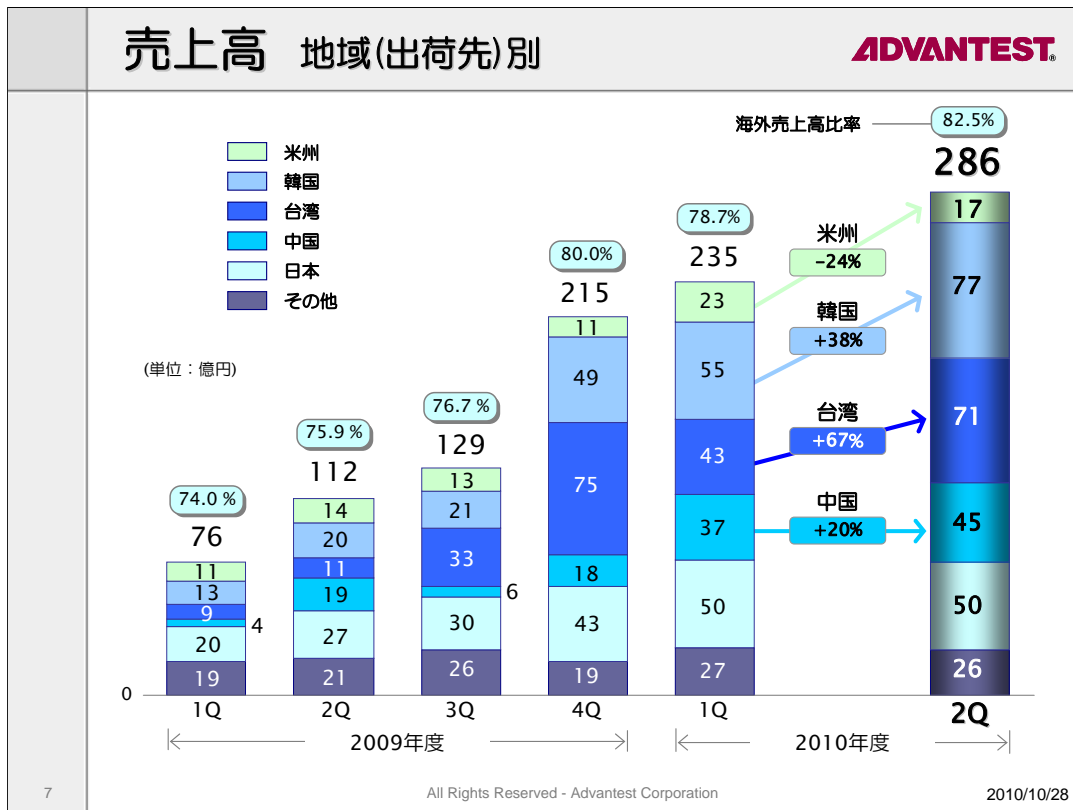
LCDドライバIC向けT63シリーズは微減したが

MPU、MCU向けのT2000が堅調に推移した

○ メカトロニクス関連事業

・前期比 41%増 57億円

・デバイス・インタフェース、テスト・ハンドラがメモリ・テスタの売上増加に同期して伸びた



○ 地域別売上高

- ・ 台湾、韓国、中国で増加。米州で減少

○ それぞれの地域の傾向を概観すると、

(台湾)

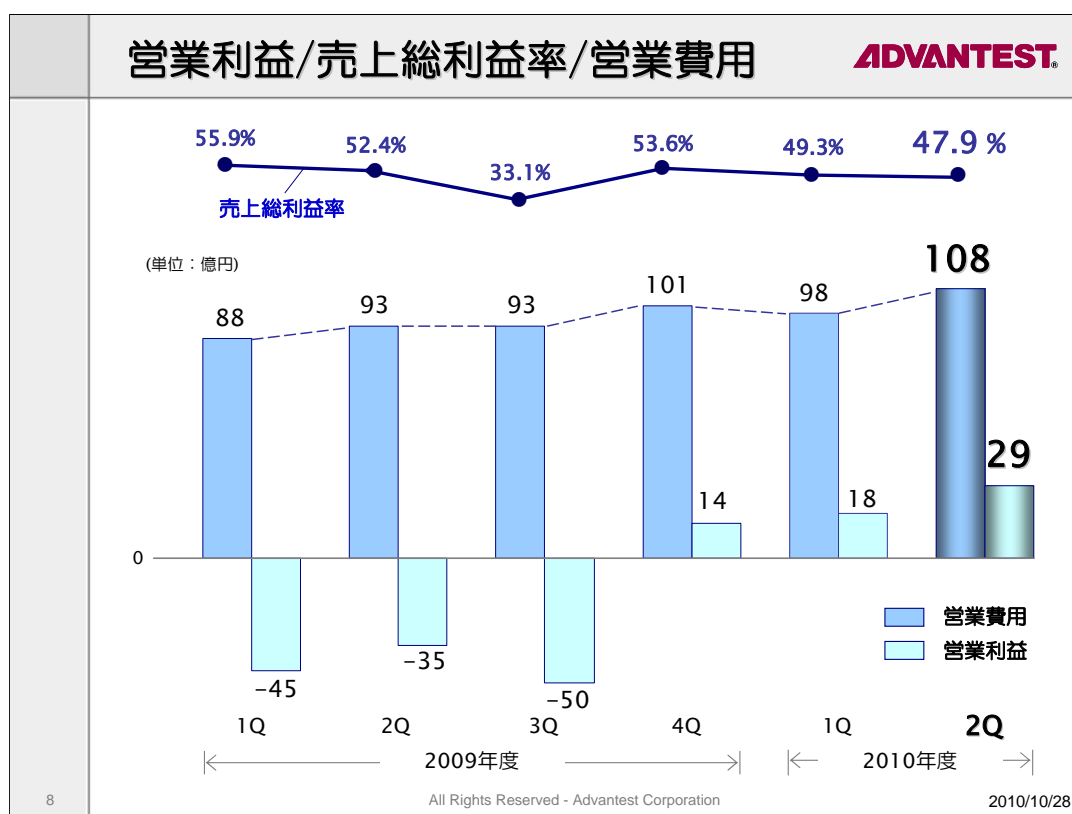
前期比67%増 71億円

メモリ・テスト、メモリ・ハンドラが増加

(韓国)

前期比38%増 77億円

DDR3後工程向けT55シリーズが増加

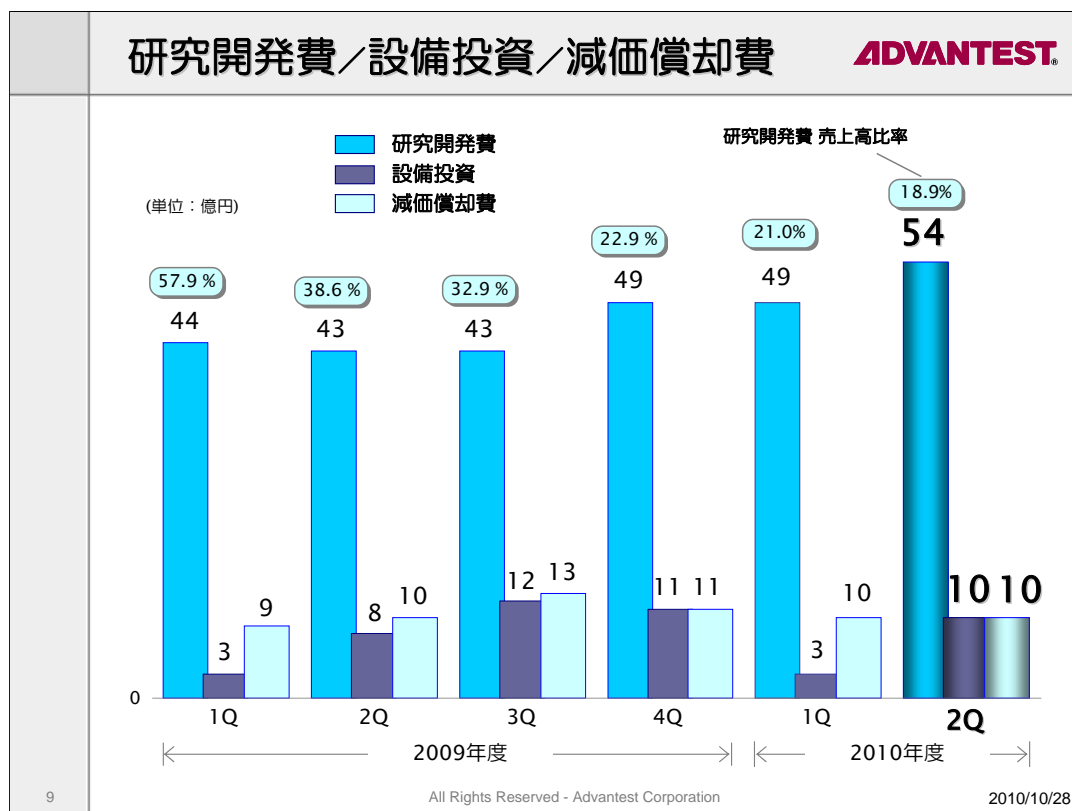


○ 2010年度第2四半期

- ・ 売上総利益率
前期比 1.4ポイント減 47.9%
製品ミックス悪化の影響による。
- ・ 営業費用
前期比 10億円増 108億円
売上増加に伴い、販売費および一般管理費が増加した

この結果、

- ・ 営業利益
前期比11億円増 29億円



○ 研究開発費

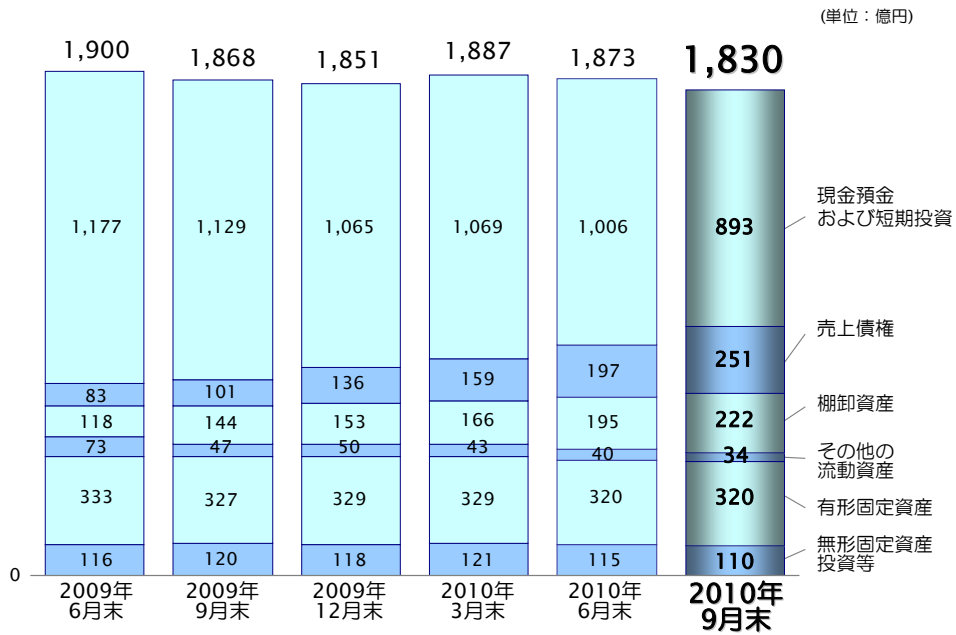
- ・ 54億円 前期比5億円増加
主に人件費が増加

○ 設備投資

- ・ 10億円 前期比7億円増加
リース向け保有資産の増加、
および開発効率・生産性向上のための設備投資による

バランス・シート <資産の部>

ADVANTEST.



10

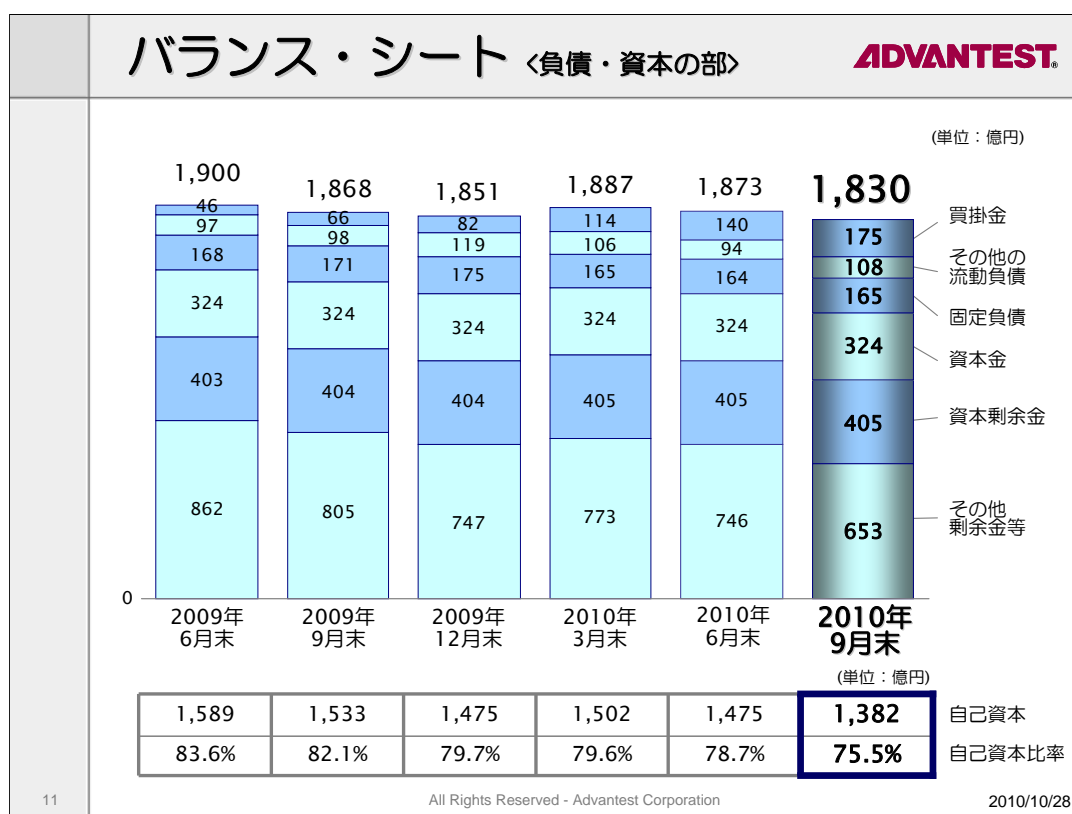
All Rights Reserved - Advantest Corporation

2010/10/28

○ 2010年9月末現在のバランス・シート

○ 資産の部

- ・ 現金預金および短期投資 893億円
2010年8月に実施した
約103億円の自己株式取得などにより
2010年6月末比 113億円減



○ 負債・資本の部

- ・ 自己資本 1,382億円
2010年8月に実施した
自己株式取得などにより
2010年6月末比 92億円減
- ・ 自己資本比率
75.5%

以上、2010年度第2四半期の決算について
ご説明いたしました。

今後の取り組み
半導体テスタ市場の
成長率を超える

- 次に、今後の見通しについてお話しします。

	今後の取り組み ADVANTEST.
13	<p data-bbox="363 338 1082 389">1 半導体テストの市場シェア向上</p> <p data-bbox="421 423 1267 488"> <非メモリ・テスト> T2000モジュールのラインアップ増強 &リピート受注の獲得 </p> <p data-bbox="421 524 1289 560"> <メモリ・テスト> DRAM前工程および後工程でシェア独占 </p> <p data-bbox="363 618 890 669">2 収益性のさらなる改善</p> <p data-bbox="363 736 746 788">3 収益源の多様化</p> <p data-bbox="363 857 839 909">4 安定的成長に向けて</p> <p data-bbox="676 981 967 999" style="text-align: center;">All Rights Reserved - Advantest Corporation</p> <p data-bbox="1238 981 1321 999" style="text-align: right;">2010/10/28</p>

- 足下ではDRAM価格の低下や、パソコン市場の減速の声も聞こえるが、悲観的になるような状況ではないと思っている
- このような環境における当社の主な今後の施策について

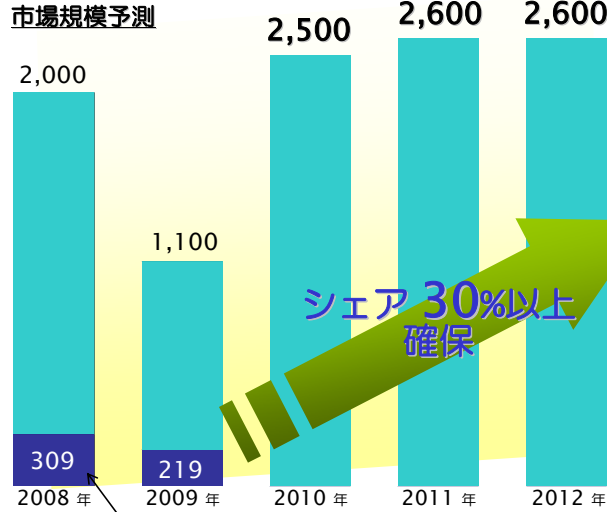
1 半導体テストの市場シェア向上

ADVANTEST.

非メモリ・テスト市場の シェア30%以上獲得に向けて

非メモリ・テスト
市場規模予測

※単位：百万ドル



当社重点ターゲット

MCU
MPU
パワー半導体
CMOSイメージセンサ



T2000
プラットフォーム

当社実績：社内レートで換算

[Source: Advantest]

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2010/10/28

- このグラフは、現時点での、非メモリ・テスト市場の見通しを示したものです
- 非メモリ・テスト市場は2010年に急回復し、その後安定した推移を見せると思われる
- そうした環境の中で、当社が業績を伸ばしていくためには、
 - ・ MCU、MPU、パワー半導体、CMOSイメージセンサといった、市場の中の中核的なエリアを見据え、
 - ・ 優位性を持つコストパフォーマンスや豊富なサポート力を武器として、競合他社からシェアを奪取し、
 - ・ シェア30%以上を確保する

という方針に変化はない

1 半導体テストの市場シェア向上

ADVANTEST

非メモリ・テスト市場の シェア30%以上獲得に向けて

①T2000モジュールの
ラインアップを増強、
新市場と新規顧客獲得

2010年

SPPT
ソリューション

高速 I/F
設計開発向け

2010年

イメージセンサ
ソリューション

CMOS
イメージセンサ向け

2011年

パワー半導体
ソリューション

車載・家電用
PMIC向け

②既存ソリューションでは
・ Fabless/OSATへの浸透
・ 中国市場の攻略
で新規・リピート受注を拡大

MPU/GPU
ソリューション

パソコン
サーバー
ゲーム機用
MPU向け

MCU/SoC
ソリューション

家電・車載用
マイコン/SoC向け

RF
ソリューション

無線通信IC向け

15

All Rights Reserved - Advantest Corporation

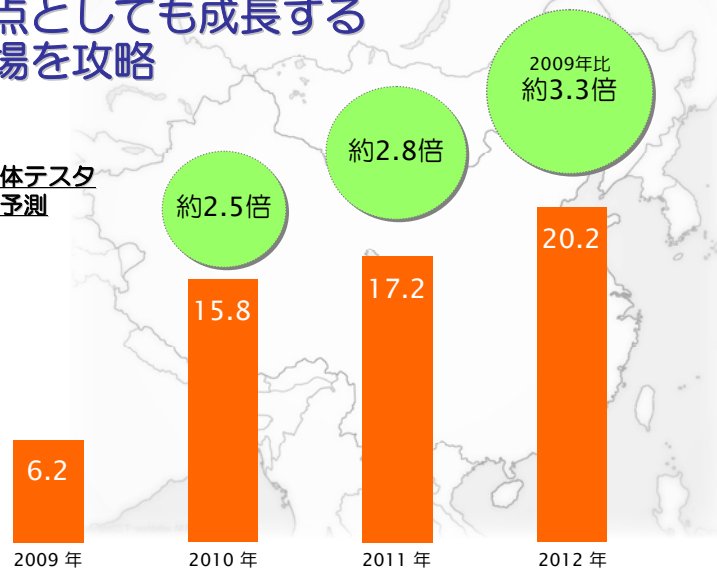
2010/10/28

- そのための具体的な施策として、
まず3分野・4種類のT2000ソリューションを新規に開発し、
近々市場に投入する予定
- いずれも過去、当社テストの存在感があまりなかった
分野へのチャレンジとなる
- どのソリューションも投資対効果に優れており、
今後のシェア拡大に大きく寄与すると期待している
- また顧客の設計・生産現場に密着し、顧客が保有する
T2000の活用を広げていくアプローチを継続する
ことで、リピート受注の増進を図る
- 発展する中国市場を中心に、顧客数の拡大を図ることで、
シェアの向上を図る
- 足下で、T2000の顧客数は41社と着実に伸びている。
この顧客ベースをさらに広く堅いものとしていく

低価格なT2000ソリューションで 設計拠点としても成長する 中国市場を攻略

中国半導体テスト 市場規模予測

※単位：億元



[Source: SEMI, Advantest]

- 中国は、世界の工場としてだけでなく、半導体の設計・開発においても、巨大な市場に成長中
- このグラフは、中国内の半導体テストの市場規模予測。2012年まで高い成長が見込まれる
- 現地のニーズに沿った、T2000のローコスト・ソリューションを展開し、地場の半導体関連企業とのビジネスを深耕していく

1 半導体テストの市場シェア向上 **ADVANTEST.**

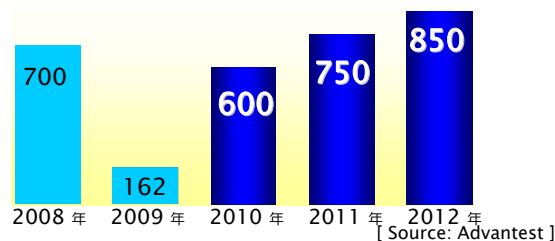
コスト・パフォーマンスを強みに、 DRAMテストのシェアをさらに伸ばす

DRAM市場 規模予測

- ・DRAMの生産個数は年々増加
- ・中心はDDR3とモバイルDRAMへ



DRAMテスト市場規模予測 ※単位：百万ドル



前工程向けDRAMテスト
「T5385」



後工程向けDRAMテスト
「T5503A」

17

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2010/10/28

- 次に、メモリ・テスト市場について
- パソコンやスマートフォン、タブレット型パソコンなどの世界的普及を背景に、DDR3型DRAMとモバイルDRAMを中核としてDRAMの生産個数は、2012年には約200億個と2009年比で約1.5倍の規模へ成長すると見込まれている
- その過程で、プロセスの微細化が進み、従来よりテスト需要が高まる
またモバイルDRAMは、相対的にテスト・タイムが長い。
これらを背景に、DRAMテスト市場の堅調な成長が期待される
- 当社のメモリ・テストは、顧客のテスト効率を左右する
高速試験性能・多数個同時測定数に強みを持ち、コスト・パフォーマンスにおいて競合他社より優位に立つ
この分野では既に高いシェアを培っているが、今後それをさらに伸ばしていく

2 収益性のさらなる改善

ADVANTEST.

スピード化・スリム化をさらに追求し
事業環境の変化への俊敏な対応を図る

- ◆設計品質の向上、開発工期の短縮
- ◆生産効率の向上と
調達オペレーションの最適化
- ◆製造人員の多能工化推進による、
生産負荷増減への柔軟な対応

18

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2010/10/28

- 次に、収益性改善の取り組みについて
- 売上の向上と並行して、
収益性のさらなる改善にも取り組んでいく
- いずれも、市場環境の変化に即応するべく、
事業展開のスピードアップと一層の効率化を目指すもので、
過去から継続して推進しているテーマ
- 開発部門においては、
「デザインレビュー・マイスター制度」を発足し、
社内の経験豊富なエンジニアの知見を
開発成果物へくまなく反映する設計プロセスに変更した

設計品質向上と開発工期短縮とともに、
若手エンジニアへの技能伝承の面でも手ごたえが出つつある
- 生産関連部門でも、製造工期・工数の圧縮や、
需要増減に即応可能な調達体制の整備を進めている
- これらに限らず、
さらなる製品競争力強化と機会損失予防の取り組みを進め、
収益性の向上を図る

3 収益源の多様化

ADVANTEST.

テストと関係が密な
周辺事業のオペレーションを強化し、
多様な収益源を確保

- ◆リース事業と
中古品販売のグローバル展開

- ◆テスト・ハンドラ 海外生産の検討

19

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2010/10/28

- 次に、収益源多様化の取り組みの進捗について
- 収益源の多様化に向けて、当社の中核事業である、半導体テストと関わりの深い周辺事業を強化し、売上機会の増進と売上拡大に取り組んでいる
- リース事業と中古品販売事業の強化について
 - ・ 2010年10月1日付で、当社100%出資の連結子会社間の吸収合併を実施した
 - ・ 当社製品のリース事業会社と中古装置販売事業会社を統合することで、製品のライフサイクルをグローバルにコントロールし、ビジネス・チャンスを拡大していく
- またテスト・ハンドラ製品については、生産拠点を海外に追加した際のメリットを検討中

4 安定的成長に向けて

ADVANTEST.

これまで培った要素技術を活かし
多角的な事業の育成と展開を図る

- 電子ビーム露光装置
- CDSEM
- MEMS技術を応用したプローブ・カード
- テラヘルツ・3Dイメージング解析システム
- NAND用テスト
 - ・新コンセプト・テストNPX (New Platform X)
 - ・B8502



3Dイメージング解析システム
「TAS7000」



MASK CDSEM
「E3620」

さらに複数の開発プロジェクトが進行中

20

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2010/10/28

- 最後に、中長期的な成長に向けた取り組みの現状について。
今後の安定的成長のため、多角的な事業を育成・展開中
- 半導体の微細化技術の発展に伴い、
当社が培ってきたナノテクノロジー技術の応用領域が拡大中。
電子ビーム露光装置やCDSEMの拡販に努めていく
- MEMS技術を応用したプローブ・カードで、
デバイス・インタフェース製品のビジネス領域を拡げていく
- 4月に市場投入した、3Dイメージング解析システムには、
自動車関連メーカー、医薬品関連企業から
大きな反響が寄せられており、
早期の売上貢献に向けビジネスを展開中
- NANDフラッシュ・メモリ用テストとして
 - ・新コンセプト・テストNPX (New Platform X)
 - ・後工程向けテストB8502、を開発中
- また、それ以外にも、複数の開発プロジェクトが現在進行中
- 以上の取り組みを進め、半導体関連事業の深化と、
半導体関連以外の領域への事業拡大による、
安定した成長への基盤を築く

ご注意

- ◆ 当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆ 将来の見通しに関する記述について
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。